

活動名称 (40字以内)	漁村地域のフィールド調査・文化体験を通してこれからの地方のあり方を考える		
団体名等	生産技術研究所		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		1 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	2019/8/3(土) ~ 8/6(火) 4 日間	主な活動場所	和歌山県和歌山市 川添研究室加太分室地域ラボ
目的	漁村地域のフィールド調査・文化体験、中高生を対象としたサマーキャンプのサポートを通して、これからの地方のあり方を考える。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>川添研究室加太分室では、東京大学の最新の研究成果を援用しつつ、住民組織や行政と連携し、デザインと政策の新しい関係を実践しています。</p> <p>本プログラムでは、加太分室地域ラボを拠点とし、川添研究室のフィールド調査に参加してもらいながら、今後の加太地域のあり方について共に考え、議論を重ね、和歌山市や地元へアウトプットしてもらうことを予定しています。また、地域の特産である鯛の一本釣り体験等の文化体験や、地元の方々と交流し触れ合うことで見えてくる漁村地域の課題や今後の可能性について、見出してもらいたいと思います。我が国の地方がどのようなことを課題としているのか、実際のフィールドワークを通じて知り、考えてもらう体験になることと思います。</p> <p>【具体的な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元中高生の大学プログラム(生産技術研究所教員数名による建築学、海洋工学のワークショップ)への教育サポートを通して、チームワークや指導力を養う ・鯛の一本釣り漁業について学ぶクルーズに参加し、持続可能な自然環境について学ぶ ・水中ロボット、環境観測調査を行い海中環境について学ぶ ・建築、海洋の講義や調査を通してまちを学術的な側面から捉える ・地元の方々との交流を通して地域の現状を学んだ上で今後の地域のあり方に関する提案を行う <p>【プログラム概要(案)】</p> <p>1日目午後：加太地域のまちあるき</p> <p>2日目午後：サマーキャンプ オープニング、体験(建築関係)-古民家を素材として</p> <p>3日目午前：体験(海洋関係)-友ヶ島への漁船クルーズ、漁業者とのふれあい、水中ロボット・環境観測など</p> <p>3日目午後：講義・グループワーク(講師：和歌山大学、環境協会、漁業者等)</p> <p>4日目午前：グループワーク・発表、クロージング</p>		
備考	・事前オリエンテーションの出席必須。日時は、後日連絡。(学生支援センター2F小会議室)		
参加するための費用※	内 訳(1名当たり)	その他※特記事項は以下に記載	
	交通費 実費 円 宿泊費 約4,000/泊 円 外食費 約2,000/日 円 () 円 計 円	宿泊先は、和歌山市立青少年国際交流センターを予定。 奨励金額 32,300 円	
ウェブサイト等	和歌山市観光協会: http://www.wakayamakanko.com/sightseeing/nature2.html 加太観光協会: http://www.kada.jp/ 生産技術研究所 川添研究室加太分室地域ラボ: http://kada-lab.jp/		